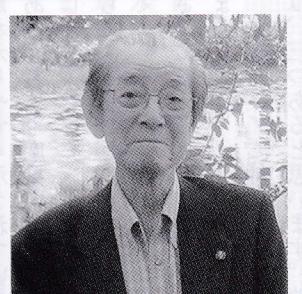


宍戸昌夫先生を悼む

長谷部 碩（三〇年卒）



故 宍戸昌夫先生
(公衆衛生学名誉教授)
(平成27年11月26日ご逝去)

春未だ浅き

二〇一五年の暮れのある会合で、北海道大学出身の医師から宍戸名誉教授が十一年前に逝去されたとの悲報を伝えられた。私たち三十一年卒業生は、昭和二十七年、当時は助教授であった宍戸先生から、一年間公衆衛生学の講義を受講した。

当時の日本人の死亡順位の第一位は結核であった。乳児死亡率も高かったが、昭和十八年に交付された妊娠婦手帳（現在の母子手帳）の成果が少しずつ現れ始めた。座学のほか施設見学も行われた。東京都港区にある公衆衛生に従事する人材育成機関の国立公衆衛生院、横浜市保土ヶ谷にある日本初の近代的浄水施設の西谷浄水場、法務施設の集団給食施設、入浴施設、その他、新子安にあつた某自動車工場などであつた。これらの施設見学から得られた公衆衛生学の知識は、後年、産業医に従事する際に大いに役立つた。



名誉教授（中央）と桔梗先生（右）と筆者（左）

バス停留所でお会いしてから数年して、登録しようという動きもみられるし、滋賀県では、第三高等学校の「琵琶湖就航の歌」を県歌にしようという声まで出ている。現在寮歌を日本の文化遺産として登録しようという動きもみられるし、滋賀県では、第三高等学校の「琵琶湖就航の歌」を県歌にしようという声まで出ている。

富山高出身の従兄に誘われて横浜寮歌祭に参加した。会場は磯子の横浜プリンスホテルであった。会場に入ると司会の声がどこかで聞いたような感じがして、注意してみると其れもその筈、司会をなさっているのは宍戸先生である。たまたま会場にいらした三十一年卒業の桔梗先生とともにご挨拶に伺つたのは言うまでもない。その後はほぼ毎年横浜寮歌祭に参加して、宍戸先生、桔梗先生と寮歌を歌つたり、ご教示を頂いたり、横浜市大時代の思い出話



第44回横浜寮歌祭第2部で「春未だ浅き」を高唱される宍戸昌夫先生（筆者撮影）

春未だ浅き

昭和十二年
第三十回記念祭寮歌

平城 鷹雄
作曲

三

春未だ浅き白楊の
雪解の小路たたずめば
しばし聞けとて私語の
木の間もれくる夕嵐

二

あはく足げに咲き出でし
おぼろおぼろの水芭蕉
なつかしの原始杜肩とりて
榾火をめぐり歌はなん

四

美酒の夜は更け行けど
尽きぬ男子の黒潮を
契の杯に汲み交はし
常縁を祝ふ自治の宴

に花を咲かせたりして楽しい時間を過ごしたのであつた。横浜寮歌祭で、北大予科修了生は第一部では、かの有名な「都

そ弥生」を、第二部では、宍戸先生作曲の「春未だ浅き」を合唱するのが恒例であつた。

会場はその後、新横浜プリンスホテル次いでパシフィコ横浜アネックスホールへと移つたが、残念ながら平成二十二年第十四回をもって閉会となつた。

先生のご長男は私の出身中学の後身の新制高校の卒業生で、現在は同校の同窓会会長をされている。先生はこの数年北海道大学での寮歌の会には、ご長男を行されて毎年参加させていたとのことであつた。

末筆ながら、宍戸先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。